



第2回 置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会

～児童生徒のSOSの受け止め方について～

文部科学省 「児童生徒の自殺予防に関する調査協力者会議」委員 阪中 順子氏

第2回置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会を10月3日(木)置賜総合支庁において実施しました。文部科学省「児童生徒の自殺予防に関する調査協力者会議」委員である阪中順子先生を講師にお招きし、「児童生徒のSOSの受け止め方」についてご講義をいただきました。

今回の研修では、“おきたまの教育”に掲げる「一人ひとりの困り感に寄り添い助け合える学校」を目指し、児童生徒が出す心の危機やSOSへの気づき方、その受け止め方を理解し、教職員が日々の教育活動に生かしていくことを目的にお話をいただきました。

阪中先生からは、児童生徒が心の危機にある時に、「私たち大人がその子に寄り添い、真摯に聴こう、分かろうとする姿勢が最も大切である」と学ばせていた

だくとともに、傾聴のポイントとして“TALKの原則”をご紹介いただきました。また、「最も多い自殺の理由が“学業不振”であった。」との調査結果に「一人一人の子どもにとって、授業の充実がいかに大切か」という事を改めて考える機会となりました。

最後に「児童生徒の心の変化に、教師が最初に気づいて、適切な援助の手を差し伸べている例は極めて多く、自殺が起きている数をはるかに上回る数の生徒や家族を救っている。」という言葉をいただき、今後も一人ひとりの子ども達を支えられる存在でありたいと感じた一日となりました。



TALKの原則

T: Tell 心配していることを言葉に出して伝える

A: Ask 「死にたい」という気持ちや背景を率直に尋ねる

L: Listen 絶望的な気持ちを傾聴する

K: Keep safe 安全を確保する

*ご参加いただいた先生方の感想から



「死にたい」という言葉は、困りごとや悩みなどの“生きづらさを訴えている”とお聞きして、今の子ども達がよく(簡単に)口にする場面を見ていたので、「背景に様々なことを抱えているということだったのか。」と納得しました。できること、できないことを見極めながら、様々な機関と連携していくことが大切だということを変更して感じました。子どもの自殺の原因に学業不振が多いという事で、小、中での基礎学力も重要になると感じました。(小学校教諭)

自殺の要因で多い「学業不振」が大学生まで続くことに驚きました。ただ、それをわかりながらも予防の手立てとして学業に対する方策の意識が低いことを実感しました。そのような中ではありますが、子どもの気持ちに共感するとともに授業研究することも予防につながると新たな認識をもつことができました。先入観による生徒の見取りも多々あったかもしれないと反省する部分がありました。同僚と共有すること、保護者とながかることを大事にし、孤立させない手立てを学校全体で考えていきたいと思いました。(中学校教諭)



自殺、学業不振、不登校…どれも大きな課題ではありますが、背景にあるものは学校の「一斉」「均質化」が共通していると思いました。言語化することも、希死念慮だけではなく、暴力をふるってしまう子どもなど、学校の課題に共通する部分だと思えます。「死にたい」という背景を考えることに加えて、言葉でSOSを伝えることも子ども達に力を付けたいと思いました。また、ロールプレイでは、先ずは受け止める、分かろうとすることが子ども理解の第一歩であることを共通理解して取り組んでいきたいと思いました。(市町教育委員会 指導主事)

9月19日(木)に後期講師等研修会を開催しました。今回の研修会は、5年経験者研修と一部合同開催とし、國學院大学人間開発学部 教授 杉田洋 氏から「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」と題して、ご講義をいただきました。服務研修と杉田先生の講義から教育職として自覚を高め、特別活動の価値を見直すことのできた研修となりました。

【参加された先生方の声】

- ・ 子ども主体で活動を行うことを改めて学ばせていただきました。教師や社会が思い描く「良い生徒やできる生徒」といった誤ったレッテルを貼ることなく、それぞれの生徒一人ひとりの良さを引き出し、存在を認められるような言葉かけや関わりを持っていきたいです。何か活動を行う上で、何事も起こらず、平和に終わることはないと考えます。私自身も事が大きくなる前に対応してあげたいと思いますが、そうではなくて、子どもたちを信じて、子どもたちで話し合い、関わり合い、解決できるような働きかけをしたいと思いました。そのためには、集団の関わり、仲間・違いを認め合える環境を育むことが重要だと思っておりますので、日々の学級や道徳、特活、授業の中で、関わりの中で喜びや楽しさを実感できるようにしたいです。
- ・ 学級経営について日々悩んでいたこともあって、その基礎となる特別活動の生かし方について大変勉強になりました。子どもが主体となり子どもが主役の特別活動、誰一人取り残さない特別活動を改めて意識し、これからの学級づくりに生かしていきたいと思っております。
- ・ 生徒達に成功体験をさせてあげたいと思ひ、どうしても教員がいい方向へ導こうとしてしまいがちですが、失敗から学ぶこともあるという話を聞いてそのような経験をさせて成長させてあげたいと思ひました。また、話し合いの中から得られることがたくさんあると思うので、できるだけ多くの機会を作っていきたいと思ひました。
- ・ 「生徒はみんな同じじゃないから、その子の良さを見る」という言葉が強く印象に残っています。勉強が得意だから、できるからいいではなく、目の前の子の良さを一つでも多く見つけ、それを生かしていける教師でありたいと感じました。また話し合いの10箇条は、国語力だけでなく居心地のいい学級づくりにも繋がると感じ、明日からの授業で早速実践したいと思ひます。



校外における初任者研修全日程終了



5月から始まりました校外における初任者研修は、12月の第3回目の県教育センターの研修をもって、全日程を終了しました。置賜教育事務所においては、8月の体験活動研修、4回の授業研究会を実施しました。

9月からは、他校の授業を参観させていただき、学習指導力の向上を目的に授業研究会を行いました。研修のテーマは、「おきたまの教育」を土台にしながら、授業する初任者同士で話し合い、決定しました。

第2回授業研究会(9/11)・・・「児童生徒が問いをもち、主体的に取り組むことができる授業づくり」

第3回授業研究会(10/10)・・・「一人ひとりが粘り強く自分で考えることの大切さを学べる授業づくり」

第4回授業研究会(11/7)・・・「児童生徒に活躍の場がある授業づくり」

提案して下さった全ての先生の授業では、目の前の子ども達に力を付けさせたいという思いをひしひしと感じました。ひたむきに子ども達と教材に向き合って提案して下さった先生、そして校内で支えて下さった校長先生はじめ、指導教員の先生方に感謝申し上げます。

～研修のお知らせ～

第2回資質・能力向上研修会

日時：1月16日(木) 14:00~16:30 (参集型)

場所：西置賜地域振興局5階講堂

対象者：研究主任 学習指導担当 等

内容：授業改善及び校内研究の推進 等

令和6年度教科書事務担当者研修会

日時：2月6日(木) 10:00~12:00 (オンライン)

対象者：各市町教育委員会及び小・中学校

教科書事務担当者

内容：教科書制度の概要及び教科書無償給与事務について 等

※令和7年度から中学校で特別の教科 道徳が採択替えとなりますのでぜひご参加ください。

